

事業名：データに基づく薬局選択に係る行動変容促進のためのモデル構築事業（社会保険支払基金健康保険組合）

（本事業の全体像）

当健保の課題

- レセプトからわかる課題：他健保と比較して外来医療費及び調剤費の水準が高い
 - 複数薬局で調剤を受けている患者や、複数の医療機関から同一成分の医薬品を処方されている患者が約170名存在している。
 - 薬剤師による一元的服薬管理がされず、重複投与・残薬等が発生している可能性がある。
- コロナ禍の影響による加入者の健康課題：コロナ禍による受診控えの可能性
 - コロナ禍前に長期Do処方を受けていた患者のうち、約5%の患者において、コロナ禍後の受診歴を確認できず。
 - 当該患者の多くが慢性疾患であり、身体的・経済的負担に加え、さらに心理的負担が加わり、受診中断に繋がっている可能性がある。

打ち手（取組概要）

- 当健保の課題はいずれも、かかりつけ薬局/薬剤師の利用率が低く、医師・薬剤師による一元的・継続的な服薬管理が行われていないことに起因する可能性がある。
- 患者のための薬局ビジョン以降、かかりつけ薬局等の普及に向けて行政施策が実施され、今年度はリフィル処方箋の導入も実現した。
- 今後さらに服薬期間中の医師・薬剤師によるサポートが必要不可欠になってくるものの、かかりつけ薬局/薬剤師・リフィル処方箋に関する保険者による先行前例はない。
- 「調剤を受ける薬局を1つに絞ること」や「かかりつけ薬局/薬剤師を持つことの重要性」など、薬局のかかり方や「リフィル処方箋」について周知・啓発することを目的とした取組を実施し、加入者の健康増進及びその結果としての医療費適正化を目指す。

（取組内容詳細）

令和4年度	令和5年度	令和6年
①ポピュレーションアプローチ かかりつけ医・かかりつけ薬局/薬剤師等のメリットや活用法に関するリーフレットの作成・配布	②意識調査アンケート・ヘルスケアポイントの付与（対象：お薬手帳へのかかりつけ薬局記入、かかりつけ薬剤師の登録など）	①ポピュレーションアプローチ - かかりつけ医・かかりつけ薬局/薬剤師等のメリットや活用法に関するリーフレットの作成・配布 ⑤効果検証及びモデル事業化の検討 - 本事業の費用対効果の検証 - レセプトによる医療費適正化効果 - アンケート・インタビュー結果による加入者の服薬リテラシー向上への寄与度 - 本事業における有形無形コストと上記2つの効果を比較した経済性 - 行動変容を促すための啓発ツール開発、本事業の対象者としてより適した加入者の抽出ロジックの確立
	③個別アプローチ - レセプトから抽出した複数薬局利用者や重複投与等リスクのある加入者に対し、個々の受診状況に応じた薬剤師への相談例などを記載した通知の送付 - レセプトから抽出した長期Do処方患者に対する「リフィル処方箋」を紹介するリーフレットの送付	④薬局選択のサポート ③個別アプローチの対象者に対して、電話による勧奨を実施 - かかりつけ薬局/薬剤師の活用状況や活用できない場合のハードルについてヒアリング

事業名：データに基づく薬局選択に係る行動変容促進のためのモデル構築事業（社会保険支払基金健康保険組合）

取組① かかりつけ薬剤師等の周知・啓発のためのポピュレーションアプローチおよびインセンティブの付与（22年度下期）

かかりつけ医・かかりつけ薬剤師等を周知し、自らの服薬管理への関心を高めるための情報発信を行った。

－ かかりつけ医・かかりつけ薬局/薬剤師等のメリットや活用法に関するリーフレットの作成・配布

かかりつけ薬局をお薬手帳に記載またはかかりつけ薬剤師を登録した加入者に対するインセンティブ付与を行った。

－ 約300名から記載/登録の報告を受理。かかりつけ薬局/薬剤師の促進に寄与したと考えられる



【リーフレットイメージ】

取組② 現状把握及び次年度以降の取組改善を目的にしたアンケート調査（22年度下期）

当健保加入者における現状の把握及び課題の明確化のためにアンケート調査を実施した。

今後は、かかりつけ薬剤師等の活用におけるハードルをより深く理解し、取組改善に活かすため、インタビュー調査も実施予定。

< 主なアンケート結果 > 回答数：約2,000名

・定期的に病院受診する加入者の約70%は「お薬手帳を保有している」と回答したものの、普段から1つの薬局で調剤を受けている（かかりつけ薬局をもっている）加入者は約10%に留まる結果であった。

・かかりつけ薬局をもたない理由としては「病院の近くの薬局が便利」「かかりつけ薬局のメリットがわからない」などが多く、かかりつけ薬局/薬剤師のメリットが十分に認知されていないと考えられる。

・リフィル処方箋については、約70%が認知していたものの、実際の利用者は約3%に留まっており、かかりつけ薬局/薬剤師同様に適切な活用方法や活用するメリットが十分に認知されていないと考えられる。



【アンケート結果イメージ】

取組③ レセプトデータを活用したハイリスク者への個別アプローチ（～24年度上期）

自身の服薬状況を振り返り、薬剤師へ相談するためのきっかけの創出や薬剤師への情報提供の正確性・利便性の向上を図るため、レセプトデータから抽出したハイリスク患者を対象に個人の服薬状況に応じた個別通知を送付した。

－（対象者①）レセプトデータから抽出した複数薬局利用者や重複投与、残薬のリスクのある加入者に対する、個々の受診状況に応じた薬剤師への相談例などを記載した通知の送付

－（対象者②）レセプトデータから抽出した長期Do処方患者に対する「リフィル処方箋」を紹介するリーフレットの送付

また、リーフレットの作成に当たっては、取組②のアンケート結果をもとに、かかりつけ薬局/薬剤師のメリットやリフィル処方箋の活用方法などを記載した。

【リーフレットイメージ】



取組④ かかりつけ薬局に関する情報を提供するための電話問い合わせ窓口設置（24年度上期～）

行動変容をより強く促進するとともに、今後の施策の改善につなげるため、取組③にてリーフレットを送付したハイリスク者を対象にかかりつけ薬局選択に関する電話による勧奨連絡を実施中。

< 電話勧奨の状況 >

・単に病院の近くの薬局を利用している方には、かかりつけ薬局/薬剤師のメリットをお伝えし、行動変容を促進

・かかりつけ薬局/薬剤師を活用できない方には、「薬の在庫が無い」や「地方在住で病院や薬局が離れている」など、活用できない理由をヒアリング



約1,000名(予定)を対象に2024年度継続実施中であり、勧奨時のヒアリング結果などをもとに次の施策の改善へ繋げる予定